

資料 3

令和元年度 各区の地域課題の解決に向けた取組状況について

駿河区事務局会議・連絡調整会議 事務局

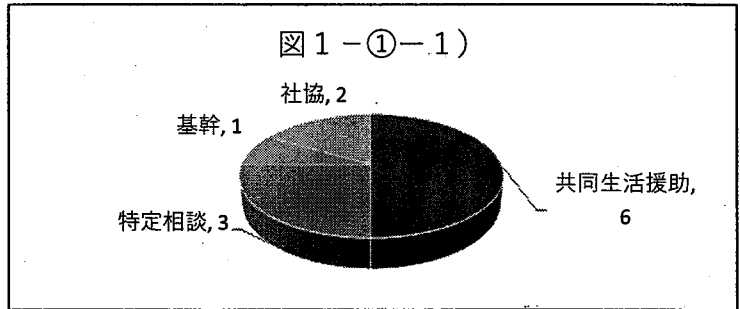
テーマ	自立支援協議会及び各部会活動の周知と、地域資源の連携強化について
概要 (課題となるポイント)	障害者自立支援協議会は、「地域課題の共有」、「連携の緊密化」、「地域の実情に即した体制の整備」といった役割を担うと定義されている。しかし、障害福祉サービス事業所をはじめとした福祉の現場では、協議会の存在感は非常に希薄で、隔たりも大きい。まして、障害福祉以外の関連機関においては、名前すら知られていないなど、更にその傾向は顕著である。
詳細 ・現状分析	昨年度も同様の課題を取り上げ、地域の社会資源の相互連携を深めることを目標に、区連絡調整会議の形で2度（児童通所系×児相、地域包括×精神科医療×障害福祉）の講座を開催したが、参加者である関係機関職員からの反響は大きく、引き続きの開催と連携強化の枠組み作りへの要望は非常に強いものであった（アンケートの「今後もこのような機会があれば参加したいか」という質問に対し、9割を超える参加者が「参加したい・ぜひ参加したい」と返答）。裏を返せば、現状、地域における福祉資源の相互連携は未だに十分でなく、協議会の存在意義とその活動内容についても認識が薄く、情報へのアクセスにも難があるものと考えられる。
事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組み	令和元年11月12日に駿河区内の共同生活援助事業所（グループホーム、以下GH）を招き、連絡調整会議を開催。8事業所9名の参加があった。協議会と市の相談支援の現状についての説明の後、GH側の希望に沿って情報交換を目的としたグループワークを行った。回収したアンケートから、やはり協議会の認知度は低く、また事業所間の連携や情報共有の機会の少なさも、支援の在り方に悩みを抱え孤立する現場の様子がうかがい知れる。参加者からは、協議会に事業所間の連携を取りやすくする仕組みを望む声が目立った。（アンケート集計結果は2ページ参照）
解決策や今後の方針	令和2年3月10日には、駿河区内の地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）に参加を募り、昨年度に引き続き介護保険分野との連携強化にむけて第2回連絡調整会議を開催予定。 今後の方向性として、①地域資源同士が、自発的に結びつきを強化できる枠組みの具体的な形を模索する、②計画相談支援事業所からケアマネへの計画の引き継ぎに際した、「引継書」の作成を始めとした標準の検討、などを想定している。同時に協議会のシステムを地域の事業所がより实际的に利用して、課題解決に結びつける方法を検討していく。

R1/11/12 駿河区連絡調整会議 アンケート集計結果

1、会議に関して

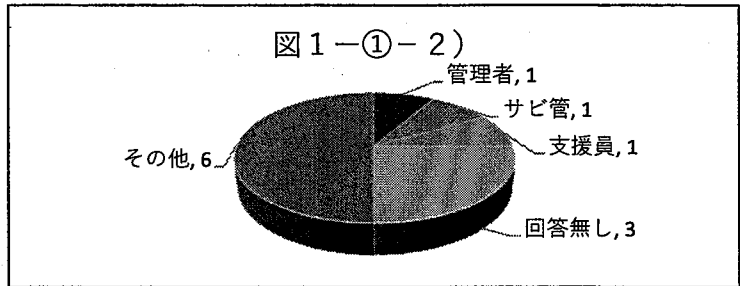
① 1) 所属

共同生活援助	6
特定相談	3
基幹	1
社協	2
その他	0
計	12



① 2) 役職

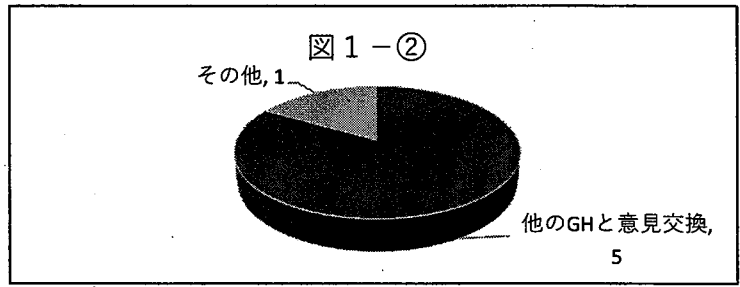
管理者	1
サビ管	1
支援員	1
回答無し	3
その他	6
計	12



※以下、内GHのみ集計

② 動機

他のGHと意見交換	5
困りごとの相談先	0
相談したいケースあり	0
その他	1
計	6



・駿河区障害相談支援連絡調整会議への参加のお手紙が届きましたので出席しました。軽い気持ちでしたが、意見交換がとってもよかったです。

③ 今後に役立つ内容だった

そう思う	6
思わない	0
計	6

④ また参加したい

そう思う	6
思わない	0
計	6

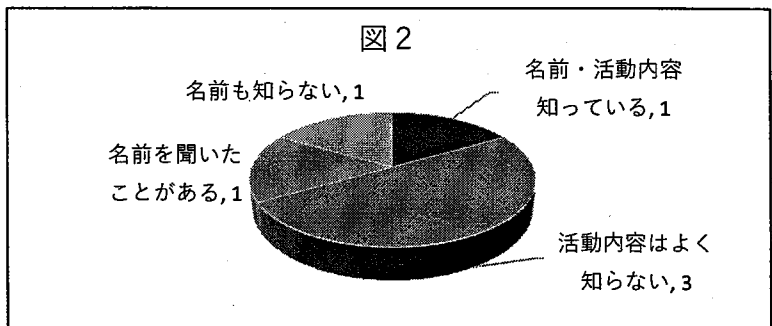
⑤ その他、意見・感想

・本日は、ありがとうございました。
 ・他のグループホームの見学などしてみたいと思います。
 ・話を聞くことはできたが、もう少し時間が欲しかった。

2、協議会に関して

① 協議会の認知

名前・活動内容知っている	1
活動内容はよく知らない	3
名前を聞いたことがある	1
名前も知らない	1
無回答	0
計	6



② 今後の会議内容への希望

・GH入居者の服薬管理・金銭管理について

令和元年度 各区の地域課題の解決に向けた取組状況について

清水区事務局会議・連絡調整会議 事務局

<p>テーマ①</p>	<p>高齢者福祉関係機関との連携について</p>
<p>概要 (課題となるポイント)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、80代の親と50代のひきこもり状態にある子(8050問題)に関する支援が増え、地域包括ケアシステムを構築する上でも高齢者福祉関係機関との連携が必要不可欠になっている。それぞれの機関が対象者を中心に支援を進めるのではなく、世帯として支援していく必要がある。 ・障害福祉サービスは、高齢者と比べ、支援の方法やスピードに隔たりがあると感じており、お互いの業務の理解が必要である。
<p>詳細 ・現状分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者支援と高齢者支援では対象者が異なり、個人情報保護の観点からも気軽に相談をしにくい状況にある。また、支援方法について勉強会など検討する機会は以前より増えているが、浸透には時間がかかると思われる。 ・老障同居世帯における高齢者を支援している地域包括支援センターなどの相談機関に、障害のある方の相談窓口の周知が出来ておらず、障害者支援の方法を伝える機会として昨年度より連絡調整会議を行ってきた。
<p>事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年7月に行った清水区障害者相談支援連絡協議会に引き続き、地域移行支援部会のワーキンググループの協力により、出張講座を行った。 ・グループでの事例検討を通して意見交換することで、関係機関のつながりをつくり、次の支援に生きる機会となった。 <p>【日時】 令和元年11月28日(木) 14:30~16:30 【場所】 静岡市こころの健康センター 研修室 【参加者】 54人 【参加機関】 清水区内の地域包括支援センター・静岡市自立支援協議会地域移行支援部会ワーキンググループメンバー・静岡市ひきこもり地域支援センターDANDAN・静岡市暮らし仕事相談支援センター・静岡市こころの健康センター・静岡市障害福祉企画課・静岡市保健所精神保健福祉課・清水区障害者支援課・静岡市地域リハビリテーション推進センター・静岡市基幹相談支援センター・静岡市地域生活支援ネットワーク「まいむ・まいむ」・清水区内相談支援事業所・清水区内福祉サービス事業所 等</p> <p>【会議内容】 精神障害のある方への対応と相談窓口について、困難事例への支援策検討、グループワークでの意見交換 【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野の違う関係機関でグループワークをすることで、お互いにケースに関しての考え方の違い、視点の違いを感じながら、多様な支援、意見に触れることができた。 ・アンケートより、出張講座やグループワークの満足度が高かった。 ・昨年度からの継続した取り組みにより、顔の見える関係性ができてきた。 ・精神分野の相談や手続き等の理解を深めることができた。

<p>解決策や今後の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も高齢者相談機関と協議する会議を行い、世帯を一つの相談ケースとして捉えて関係機関が連携することで、8050 問題に対する支援方法が安易になるようにしていく。 ・清水区内の支援機関が一体となって支援に取り組むことで、障害者も高齢者も住み慣れた地域で自分らしい生活を送るための仕組みづくりを行う。
------------------	--

<p>テーマ②</p>	<p>静岡市東部地域(由比・蒲原)の相談支援体制の構築について</p>
<p>概要 (課題となるポイント)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡市東部に位置する由比・蒲原地域においては、障害福祉サービス事業所が少なく、障害のある方の障害特性や生活状況に応じたサービス利用が難しくなっている。また、職場についても障害のある方に対応する企業や事業所が近隣に少なく、通勤を含めた就業が難しい。
<p>詳細 ・現状分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・由比・蒲原地域在住の方は、清水区内の事業所を利用するが、近隣には事業所が少なく、気軽にサービス提供を受けることが難しい。 ・静岡市との合併以前は、各町独自の限られた福祉サービスしかなく、現在の地域住民には福祉的支援の存在や、サービスを利用することについての情報などが認識されていない可能性が高い。そのため、困りごとに対して予防的支援が行われ難い。
<p>事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービスが偏在する地域において、障害のある方の特性や生活状況に応じたサービス利用や養護者の高齢化に備えた支援、障害児の適切な支援に関する相談支援体制を構築するため、出張相談会として静岡市清水区東部地域（由比・蒲原地域）「障がい福祉相談会」を実施した。 【日時】 令和元年 10 月 29 日（火） 10 時 30 分～15 時 30 分 【場所】 蒲原生涯学習交流館 3 階 小会議室 2 【相談件数】 3 件 【参加機関】 静岡市地域生活支援ネットワーク「まいむ・まいむ」・静岡市基幹相談支援センター・静岡市社協清水区地域福祉推進センター・蒲原由比地域包括支援センター・静岡市保健所精神保健福祉課・清水区障害者支援課・静岡県立清水特別支援学校・はーとばる・清水障害者サポートセンターそら・障害者相談支援センターわだつみ・百花園宮前ロッヂ相談支援事業所 【結果】 ・相談があった案件に関しては、その場で情報提供したり、委託相談が関わりながら、関係機関につなげる準備や福祉サービスの利用申請の支援をしている。 ・地域の生活支援体制や特性の共有、今後の相談会の運営方法等についての話し合いの場として有効に活用することができた。

<p>解決策や今後の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に相談会を定着させていくために、定例化を検討している。 <p>次回開催予定</p> <p>【日時】令和2年1月21日（火）10時30分～15時30分</p> <p>【場所】蒲原生涯学習交流館3階 小会議室1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域生活支援ネットワーク「まいむ・まいむ」と共同し、静岡市東部地区で相談会を行い、福祉サービス等の情報提供を行うとともに、地域の障害のある方の実態及び課題について把握を行う。 ・地域的に住民が高齢化していることを踏まえ、親亡き後の困りごとを減らすため、由比蒲原地域の方々が障害福祉サービスを利用し、安心して住み慣れた地域で生活できるようにしていく。
------------------	--

令和元年度第2回 清水区障害者相談支援連絡調整会議 参加者アンケートまとめ

43人分 回収 / 出席者 54人

1 今回の連絡調整会議に参加して良かった点がありましたか？

ある 42人
ない 0人
わからない 0人
未記入 1人

◇ 理由

【地域包括支援センター】

- ・各機関の考えを知ることができた。その考えをもって(知って)日頃の業務にあたりたいと思った。
- ・8050 問題、すぐ制度につなげるのではなく、母親・本人の意思を確認。意思決定支援(一緒に考える)が大切なことを理解した。
- ・精神障害のある方の対応や、考え方を学べてよかったです。ありがとうございました。
- ・障害者相談支援機関、各機関の役割、動き方を知る機会となりました。ありがとうございました。
- ・他機関の方の顔が見れたこと、どういふ方と電話しているのか、するのか・・・やはり人物像が見えないと緊張します。
- ・各機関の役割を知ることができた。
- ・事例を通して、他機関の方々の話を伺い、役割、機能について知る機会となりました。
- ・他機関の方と顔の見える関係が少しできたことも良かったです。
- ・精神障害の方のつなぎ方がよく分からないため、勉強になりました。

【関係機関（障害福祉事業所/行政/その他支援機関）】

- ・地域で活動されている方々と意見交換ができ良かったです。
- ・1つのケースについて他機関、他職種の意見を聞いた。
- ・事例検討で色々な方の考え方を聞くことができ、参考になった。
- ・各機関の立場や考え方が見えて勉強になりました。

【地域移行支援部会ワーキンググループ】

- ・すべて良かったです。
- ・他機関、分野が異なる方からの情報を得られたこと。
- ・各機関の役割、苦手な点を確認できた。どこに、どんな支援を依頼すればよいかを考える機会となった。
- ・多くの支援者の方と繋がることができ、様々な意見を聞くことができた。
- ・地域の機関と知り合いになれた。普段の関わりを見直せた。
- ・事例、やや似たようなケースがあり、今後考えていかなければならないなと思っていたところでした。
- ・グループワークでより適当な案を探し合っていた。
- ・何を確認しながら進めていくか等、お互いに確認ができたので良かったです。
- ・事例の中でさまざまな視点を聞くことができ、学ぶことができた。

- ・様々な切り口から意見を聞くことができた。
- ・地域性や各機関の専門性を互いに理解し、歩み寄りながら連携することの重要性を再確認できた。

【清水区相談支援事務局会議】

- ・様々な立場の方のアセスメントの仕方を聞くことができた。
- ・普段あまり関わりのない機関の方の意見を聞くことができてよかったです。
- ・保健所がよく言う「通報」というものが、精神分野以外では伝わらないことを教えていただき、お互いに理解するきっかけになった。
- ・「困った」レベルの相談は対応先があるものの、「不安」「心配」レベルの対応は、社会的支援のなかで仕組みがないかも・・・と気づいたこと。
- ・電話だけのつながりから、顔を見て関係を作ることができました。ありがとうございます。
- ・各々の機関の立ち位置や動き方について学ぶことができた。
- ・他業種の方との接点となった。
- ・いろんな意見が聞けた。
- ・顔を見て意見交換できた。
- ・様々な職種の方へ知りたいことを聞けた。
- ・地域移行ワーキングの方のGW 進行でとても有意義な話し合いができました。今後、自分が進行するGW の機会でも役立てたいと思います。
- ・いろいろな機関の方から話を聞くことができた。

【その他】

- ・多職種の方が集まることで連携のきっかけができる。センター長のまとめ講評がよかった。
- ・多職種の方々の視点を知ることができ、大変参考になりました。

2 知りたい！伝えたい！つながりたい！交流講座の内容について (単位：人) ※未回答あり

	理解できなかった		どちらとも言えない		理解できた		役に立たない		どちらとも言えない		役に立つ	
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
交流講座	0	0	0	11	31	0	0	2	10	28		
グループワーク	0	0	0	11	31	0	0	1	8	30		

◇ 意見・感想

【地域包括支援センター】

- ・支援する側の姿勢によっても解決の度合いが変わってくると思う。「力になる」と思ってくれるだけで相談した側の安心感は違ってくる。
- ・専門職の意見が聞けた。役割を理解した。
- ・グループワークもいろいろな意見を聞いて良かったです。

- ・保健所で対応した事例をもとに説明があったため、機関の動きがイメージしやすかった。
- ・包括、ケアマネ、障害者支援機関が顔を合わせて話をするのでお互いの困りごとが減らせるのではないかと思う。今後このような機会があるとよい。

【関係機関（障害福祉事業所/行政/その他支援機関）】

- ・多職種の方と意見交換ができてよかった。
- ・当機関の立場からの視点だけでなく、幅広い視点で一つの事例をみる大切さを学びました。

【地域移行支援部会ワーキンググループ】

- ・本題から外れてしまい、情報交換メインになりましたが有意義でした。障害福祉にも包括のように分かりやすい相談窓口が必要。
- ・普段、相談しづらいことをお互いに確認し、対応策を見出すことができた。
- ・支援が必要か必要でないかの判断も大切なのだと学びました。
- ・包括の方の意見も聞いて良かったです。
- ・本人、母親、両方の意思を中心に考えつつ、各機関からの見解を聞いた。
- ・駿河区でも、年度中に高齢分野との交流の機会を設ける予定です。3区で連携した取り組みも視野に入れていきたいですね。

【清水区相談支援事務局会議】

- ・包括の精神相談関する期待や安心感を知った。
- ・グループワークでそれぞれの困りごとを聞ける時間があるといいなと思った。
- ・様々な機関の人たちと話すことで、独りよがりな感覚を考え直すきっかけになる。
- ・民生委員の実態調査は75歳以上、高齢者夫婦か単身生活であることを知った。
- ・講義もグループワークもわかりやすく、話しやすくて良い雰囲気でした。
- ・話を聞いてとても勉強になりました。

【その他】

- ・相談の内容は千差万別。その人の身になってはやり大変ですが、面白い。

3 地域や家庭の中で生活する障害のある方の相談対応に関して、心配事など

【地域包括支援センター】

- ・山間地のため訪問等をしていただくにしても距離的なものがあり逆にご苦勞を掛けてしまうことを気にしてしまう。現に相談された家族も気の毒がっていた。反対に相談機関や医療機関にかかろうと思っても距離があり行くことが困難。行きたがらない原因の一つとなってしまう。
- ・親がぎりぎりになるまで相談はない。（子のことを外に知られたくないという理由）
- ・そこを触れているのか？気分を悪くしないか？相手の反応をきにしてしまう。こちらの推測だけで踏み込めない。地域の問題となっている方が多いように思う。
- ・認知症と精神疾患の親子。どちらもサービスにつながらなくて困っているケースがあります。

【関係機関（障害福祉事業所/行政/その他支援機関）】

- ・障害者、家庭における支援体制。個別支援はかかわっているか家族との調整する役割がいなく、まとまらない。（リーダー役、機関がないので進まない）
- ・障害があるのかないのかわからない人の相談が困っています。つなぐ先に苦慮しています。
- ・8050 問題、親なき後の相談はととも増えています。

【地域移行支援部会ワーキンググループ】

- ・精神科病院がまだ地域の資源として浸透しきれていない。気軽に相談できるようになりたいです。
- ・8050 問題の中で親亡き後の体制づくりや相談対応の難しさを感じています。

【清水区相談支援事務局会議】

- ・横のつながりがないと感じている事業所同士をどうつなげたらよいか。

4 障害者相談支援についての意見、要望（会議で取り上げてほしい議題など）

- ・今回のような高齢部門と障害部門が連携(ともに考えていかなければならない)できる内容の事例(GW)をお願いしたい。
- ・高次脳機能障害のある方との関わり方(支援、受診の注意点、手帳更新にあたって気をつけること 等)
- ・連携先のサービス内容や支援内容を知りたい。
- ・また事例検討など情報交換をしたいのでご案内いただきたいです。
- ・高齢分野との交流。
- ・介護保険、障害福祉サービス併用の事例を学びたい。
- ・ひきこもり、8050 問題。
- ・民間、学校、医療、市民活動団体との連携。
- ・ニーズの聞き取り方「困ったことはないですかね？」など、言葉遣いの重要性を再認識した。
- ・本人の意思が重要なのはよく分かるが、意思表示がない(できない)ことで放置していないか？と感じた。
- ・包括のようなつながりやすい仕組みづくりを周知すると様々な方とつながれると思う。



ちょっと気になるアレ・コレを聞いてみよう♪

障がい福祉相談会

静岡市内（清水区内）の相談支援機関が対応します。
どなたでも、お気軽にお立ち寄りください！
～～手帳の有無・診断の有無は問いません～～

障がい者の親亡き後
どうなるの？

仕事について

生活のこと

子育てのこと

福祉サービスについて

これって障がいなのかしら？

本人との接し方

誰に相談したら良いの？

★支援者から相談もOKです

日時：令和2年1月21日（火）10:30～15:30

場所：蒲原生涯学習交流館 小会議室1

（静岡市清水区蒲原新田1丁目21-1）

今回のお問い合わせ；障害者支援推進センター ☎254-6880
予約不要です。個人情報（内容等）は守られます。

主催：地域生活支援ネットワークまいむ・まいむ

協力（予定）：静岡市清水区障害者相談支援連絡調整会議事務局、静岡市障害者協会、清水手をつなぐ育成会、静岡市社協清水区地域福祉推進センター、蒲原由比地域包括支援センター、静岡市障害福祉企画課、静岡市保健所精神保健福祉課、清水区障害者支援課、清水福祉事務所蒲原出張所、静岡市発達障害者支援センターきらり、静岡市地域リハビリテーション推進センター、はーとぱる、清水障害者サポートセンターそら、障害者相談支援センターわだつみ、すずらん、百花園宮前ロッヂ相談支援事業所、ゆうゆう舎相談支援事業部、相談支援よろづ屋、パステル、ちむぐる、（福）庵原福祉会、（N）ワークホーム結、清水精神保健福祉心明会ほか地域生活支援拠点を担う事業所

静岡市東部地域（旧由比町・旧蒲原町）の

障害のあるお子様・障害のある方・ご家族の皆様へ

～住み慣れた地域で・暮らし続けよう～

⇒ この相談会は、静岡市東部地域（旧由比町・旧蒲原町）に、障害者相談支援事業所がないことから、もっと身近な・もっと気軽な相談の場所を創ろうと清水区障害者相談支援連絡調整会議と地域生活支援ネットワーク「まいむ・まいむ」等が連携して開催するものです。

皆様のご要望にそって、定期的・継続的に開催していく所存です。今回は、はじめの第一歩として、「皆様の想いや地域のこと」を伺いたいと存じます。

また、今回の相談会にご参加できない方は、下記の静岡市委託の障害者相談支援事業所のリストを参考に、ご相談いただければ幸いです。

記

清水区の委託障害者相談支援事業 それぞれの障がいの様子に合わせ、具体的な相談に応じます。

相談窓口の名前	住 所	電 話	FAX
清水障害者サポートセンターそら (主に対応する障がい 身体障がい)	<small>しみすくいはらちよう</small> 清水区庵原町219-18	366-7781	366-7780
障害者相談支援センターわだつみ (主に対応する障がい 知的障がい)	<small>しみすくこまごえにし</small> 清水区駒越西 2-10-10	335-1031	335-7821
はーとばる (主に対応する障がい 精神障がい)	<small>しみすくむらまつばら</small> 清水区村松原 3-14-8	337-1746	336-7655

基幹相談支援センター

	相談窓口の名前	住 所	電 話
NPO 法人 静岡市障害 者協会	静岡市障害者相談支援推進センター	葵区城内町 1-1	254-6880
	静岡市障害者虐待防止センター	中央福祉センタ	266-7719
	障害者 110 番相談窓口	-3F	275-1816

FAX 共通 254-6880

地域生活支援ネットワーク「まいむ・まいむ」

相談担当	住 所	電 話
サービス調整コーディネーター（花園会受託）	清水区楠 1501 <small>社会福祉法</small>	344-3555
相談調整コーディネーター（障害者協会派遣）	<small>人花園会</small> 百花園宮前ロッチ	

障害児者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、住み慣れた地域で生活を続けるために五つの機能を、地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障害児者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築することを目指しています